

徳島県歯科技工士会 第 104 回生涯研修（自由研修課程）

2024 年 11 月 23 日（土）

講師：鴨居浩平先生

【演題①】歯科技工士の「災害時の歯科医療支援」

近年、本国における自然災害の発生件数は増加傾向にある。気候変動がその要因の一つとして考えられているが、今後の気候変動の進行とともにさらなる気象災害リスクの高まりが懸念されている。一方で、医療分野に包括的医療チームが求められる中、歯科技工士も医療従事者として様々な医療への参画が期待されている。年々増加する自然災害に対して、災害時の歯科医療ニーズも今後さらに増えていくことが予想され、歯科医師や歯科衛生士らと共に歯科技工士も限られた環境下での患者の歯科医療ニーズに応えていく必要がある。東日本大震災後も、歯科技工士は即時義歯の製作など、日々培った技術を用いた医療支援を行った報告があるが、災害医療とは技術の提供だけでは完結しない。本講演では、技術の重要さはもちろんのこと、歯科技工士が身につけておくべき知識としての災害医療も解説した上で、今後歯科技工士の活躍が求められた際に医療従事者としての災害支援が行える準備づくりを皆で考えられたらと思う。

【演題②】歯科医療における 3D プリンターの活用と応用

CAD/CAM 技術の普及とともに、歯科医療におけるデジタル技術の活用は急速に広まっており、3D プリンターの普及により医療の更なる DX（Digital Transformation）化が進んだと言われている。3D プリンターを用いた義歯や、維持装置、仮歯の製作など、使用用途は多岐に渡る一方で、樹脂のコストや適合精度を加味すると、まだ積極的に 3D プリンターを臨床活用できていない技工所も存在する。そこで今回、大学病院での 3D プリンターの活用方法を共有すると同時に、臨床応用するにあたっての勘所を解説することで 3D プリンターの更なる可能性を見出していければと思う。各メーカーから様々な樹脂が開発、販売される中で、本講演を通して 3D プリンターが今後の医療の更なる DX 化に寄与できるものになれば幸いである。